



月の光奉賛会
満月の前日
令和元年5月18日 対馬での御神事

(1) 日時：5月18日 9時30分～

場所：豆酩の多久頭魂神社の拝殿前

終了後 近くで直会と昼食会。
直会の参加費は実費（1000円くらい）

(2) 日時：5月18日 15時～

場所：佐護の天神多久頭魂神社の拝殿前

終了後 近くで直会。
直会の参加費は実費（800円くらい）

| | |
|--------------|--------------|
| 御神事次第 | 一、宮司様か主宰者の挨拶 |
| 一、修祓 | 一、宮司様の大祓祝詞奏上 |
| 一、教育勅語奉唱 | 一、玉串奉奠 |
| 一、宮司様か主宰者の挨拶 | 一、撤饌 |
| 一、直会 | |

■御祈願の趣旨■

御皇室の弥栄と日本各地の宮司様の弥栄を祈り、世界の平和を祈念し、そういう活動を支えられる地域経済の繁栄を願います。

宮司様に大祓祝詞を奏上していただき、参列者で教育勅語を奉唱します。

■「月の光奉賛会」とは■

「月の光奉賛会」とは、日本神話の源流をなす伊邪那岐命と伊邪那美命の国生みの島々、神話に由来する島々を顕彰する奉賛会です。代表を務める成田亨は、平成7年（1995年）の阪神淡路大震災以降、家族で日本各地の1500カ所以上の神社を参拝してきました。

御神職の方々はその先には、天皇陛下がおられるものなので、平成から令和への御代替りにあたって、こういうことが自覚できるように御神事をやっいていくことを目的として設立しました。

参加費無料！ どなたでも参加できます。

ご参列の方に天照皇大御神様と天照大御神様の御神影をプレゼントします。

■令和元年5月13日に行われた「斎田点定の儀」の亀卜（きぼく）■

令和元年5月13日、皇居宮中三殿の神殿の前で行われた「斎田点定の儀」の亀卜（きぼく）によって、東の「悠紀（ゆき）」地方として〇〇〇、西の「主基（すき）」地方として〇〇〇が決定しました。

令和元年11月14-15日の大嘗祭では両地方のお米が使われることとなります。

東西の悠紀・主基に対して、対馬では南北の悠紀・主基が定められています。対馬南部の豆酩にある多久頭魂神社が悠紀宮と呼ばれ、対馬北部の佐護にある天神多久頭魂神社が主基宮といわれています。

悠紀（ゆき）・主基（すき）の語源については不明といわれていますが、彦火火出見尊の父神である瓊々杵尊が天孫降臨される時、降臨地点を「行き過ぎ」ないように座標軸を示されたものと思われま。高皇産霊神や神皇産霊がお働きになられていた遠い神代の昔から、対馬には、座標軸を示す特別な使命が与えられていたのだと思います。

悠紀・主基を決める亀卜（きぼく）は、御皇室と対馬の豆酩に伝承されるのみとなっていることを鑑みて、豆酩の重要性が示されています。さらに、豆酩と対で語られる北の佐護の位置がわかります。



天照皇大御神様御姿

さらに、豆酩に伝承されている「天童」は、地球の大天変地異があった時代、伊勢の天照大御神さまを陰ながらサポートするために竜良山（たてらさん）に降臨された天照皇大御神さまの御姿です。

天照皇大御神さまは、神様として降臨されたのではなく、「童（男の子のわらべ）」として降臨されているので、特別に対馬では「天童」と尊称してきました。

度重なる変転によって、現在では、「天童」と「天道」が混同、習合し由来が失われています。

平成から令和への御代替りに当たって、遠い神代の昔から古代、近現代史において対馬の果たした役割に思いを馳せ、満月の日か、その前後に祈りを捧げたいと思います。

< 月の光奉賛会 代表 成田亨 >

〒177-0033 東京都練馬区高野台1-23-30 ガーデンコート高野台 805

携帯 080-9175-4666

メール naritatooru@gmail.com